

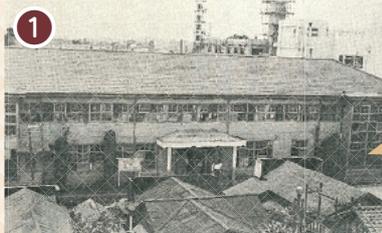


済生会宇都宮病院の沿革

旧病院時代

当院は、昭和17年5月30日、宇都宮一条町に仮診療所として発足しました。昭和19年にその名を宇都宮病院と改称して移転するも、翌年、戦災により建物が全焼してしまいます。しかし、「一日も恩賜の医療の灯を消すこと無かれ」と、全職員をあげて昼夜罹災傷病者の無料救済に奮闘しました。

昭和23年6月、旭町に42床の病院を新築しました。以降、社会福祉法人としてあるべき姿を追求し、乳児院や特別養護老人ホームの開設、附属看護専門学校の開校といった福祉サービスや人材教育に尽力しました。病院事業としては、常に先進的医療を目指し、ベッドの段階的増床、総合病院の指定(昭和32年)、栃木県救命救急センターの受託(昭和56年)等を経て、地域中核病院として発展を遂げてまいりました。



昭和23年
「旧病院本館」



昭和47年
「旧病院南館」

移転、そしてこれから

平成8年5月、中央本町から竹林町へ移転し、病床数は644床となりました。未曾有の大移転は警察、消防、自衛隊等の多数のご支援により無事完了いたしました。新病院は救命救急センターを充実させ、災害時及び遠隔地への対応にヘリポートを設置しました。また、脳・循環器病センターや県内初の緩和ケア病棟を新設しました。現在もなお、高度急性期病院としての機能拡充に日々取り組んでいます。

昭和、平成、そして令和に時代が移り、病院を取り巻く環境は大きく変化してきました。その中で、私たち「済生会宇都宮病院」が、設立当初から、現在、そしてこれからも変わらないことは、地域の皆さまの期待に応え続ける医療を提供し、信頼関係のもとに地域の中で当院が求められる役割を果たしていくことです。



平成8年
「新病院」



平成29年
「南館」

理念である「思いやりのある安全で質の高い医療を提供し、地域社会に貢献します」のもとに、今後、50年、100年と信頼され続ける病院を目指して、当院はこれからも歩み続けてまいります。

平成											昭和								
31年1月	30年8月	29年7月	26年4月	23年1月	22年5月	20年11月	17年6月	10年5月	8年5月	5年12月	59年4月	56年5月	47年3月	32年1月	23年6月	8月	20年7月	19年7月	17年5月
手術室改修(13室)	集中治療室改修(18床)	南館竣工写真④	DPCⅡ群(現特定病院群)指定	電子カルテ稼働	西館(システム室)竣工	バスセンター開設	北館(健診センター)他竣工	病院機能評価認定(県内初)	新病院開設(644床)写真③	新病院建築工事着工	北館1階病棟開設(54床)	救命救急センター開設(532床)	南館増築工事竣工写真②	総合病院の指定(24床)	本館竣工(旭町・42床)写真①	仮病院開設	戦災により病院焼失	病院開設(曲師町・40床)	仮診療所開設(一条町)